

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 土田 和博

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	近本 聡子	経営	H0404087
	②	植村 義秀	福祉	H1801080
	③	川畑 俊一	福祉	H2301081
	④	笹野 武則	福祉	H2301005
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	福祉型障害児入所施設(旧知的障害児施設)			
評価対象事業所名称	友愛学園児童部		指定番号	1352800013
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-107		
	TEL	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長 石川 淳			
契約日	2025 年 5 月 26 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 8 月 7 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 11 月 19 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 7 月 15 日			
自己評価結果報告日	2025 年 11 月 19 日			
訪問調査日	2025 年 11 月 26 日			
評価合議日	2026 年 2 月 10 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査(家族を対象)はアンケート方式で実施し、回答は直接評価機関に郵送してもらいました。児童本人の様子は、別途場面観察方式で調査しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもたちの最善の利益を考える（権利擁護） 2)子どもたちの健やかな成長を支える（信頼感・安心感・満足感） 3)日々の観察から肯定的な子ども像を捉える（正しい特性理解・潜在能力の助長） 4)保護者を共同の援助者とする（学び合う意識） 5)子どもたちが望む自立的な大人の生活実態を支える（社会への移行支援）</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>* 誠実であること。 * 主体性をもって考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材。 * 組織の一員として最低限の報告・連絡・相談ができ、周囲の意見を傾聴、保護者との協同による児童の育み、独善的な言動に走らず謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>* 国民の税金により仕事をしている以上、社会に向けて自分の仕事の説明責任を伴うこと、声明を預かっていることの重さを常に意識してほしい。 * そして、正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えていく気概を持ち続けてほしい。</p>

調査対象

在籍の利用者31人、家族総数は31世帯です。措置入所児童が多いので、事業所と協議して21家族を調査対象としました。

調査方法

アンケート方式で実施しました。回答は評価機関に直接郵送してもらいました。利用者本人（児童）は場面観察によって調査しました。

利用者総数

31

利用者家族総数（世帯）

31

共通評価項目による調査対象者数

21

共通評価項目による調査の有効回答者数

13

利用者家族総数に対する回答者割合（％）

41.9

利用者調査全体のコメント

* 総合的な感想では13人中「大変満足」が7人（53.8%）、「満足」が5人（38.5%）で、合わせて12人（92.3%）が満足とされています。「どちらともいえない」は1人（7.7%）でした。
 * 個別の評価項目（13項目）では、13人全員が「はい」と答えた項目は4つ、12人（92.3%）の項目は2つ、10人（76.9%）の項目は3つ、9人（69.2%）の項目は3つで、8人（61.5%）が1つでした。
 * 全員が「はい」と回答した項目は、「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子どものプライバシーは守られているか」「個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか」でした。

場面観察方式の調査結果

調査の視点：「日常生活で利用者の発するサイン（呼びかけ、声なき呼びかけ、まなざし等）とそれに対する職員のかかわり」及び「そのかかわりによる利用者の気持ちの変化」

評価機関としての調査結果

《調査時に観察したさまざまな場面の中で、調査の視点に基づいて評価機関が選定した場面》

午前の課題学習の時間。Bさんは手本を見ながら自分の名前を書く課題に移った。しかしBさんは書こうとしなかったため、職員が1文字ずつ書いて見せて、Bさんに鉛筆を手渡した。Bさんは鉛筆を手にしたまま書き出そうとせず、暫くして、躊躇しながら職員と一緒に書いてほしいというような仕草をした。職員はBさんの手を持って、一緒に最初の1文字を書き、あとは自分で書いてみよう、というようにBさんから手を離れた。Bさんは少し間をおいた後、意を決したかのように自分で残りの名前の文字を書き終えて、やり遂げたような表情をした。

《選定した場面から評価機関が読み取った利用者の気持ちの変化》

午前の課題学習の時間、Bさん（男子高校生）はビー玉位の小さな丸い玉を箸を使って箱に移し入れる課題に取り組んだ後、自分の名前を書く課題に移った。Bさんは何をやるのかということはわかっているようだったが、鉛筆を手にしたままためらった感じで書き始めようとしなかった。職員はその様子からBさんの気持を察して、じゃあ私が先に書いてみるよ、というように先にBさんの名前を書き、Bさんに鉛筆を渡した。Bさんはそれでも戸惑うような感じで書き始められず、鉛筆を持った手を職員に差し出した。職員と一緒に書いてほしい、というしぐさのようだった。職員はBさんの手を持って、名前の最初の文字をBさんと一緒に書いた後、じゃあ後は自分で書いてみよう、というようにBさんの手を離れた。Bさんはそれでも少しためらっていたが、意を決したように手本を見ながら自分の名前を書き終え、書けた一、というように鉛筆を置いた。職員はBさんの気持や行動の特性をふまえ、その時々への対応を考えながら関わっているようだった。そして、Bさんは職員の間わりやきっかけづくりに手助けされながら、自分でできることを少しずつ増やし、生活の幅を拡げていくことができているように感じられた。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域の一員としての役割を果たすため地域関係機関のネットワークに参画しています	
内容①	東京都社会福祉協議会、学校運営連絡協議会、東京都発達障害支援協会等の事業所連絡会や施設長会等に参画し地域の一員としての役割を果たせるよう努めています。また、地域ネットワーク内での共通課題について、要保護児童対策地域協議会や地域移行推進コーディネートとの連携を図り、協働できる体制を整えて取り組んでいます。さらに、地域の福祉ニーズにもとづき、外部への講師派遣、研修受け入れ、地域行事への参加、行政事業への協力等事業所の機能や専門性を活かした地域貢献の取り組みを行っています。成人施設の情報を得られることもあります。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	チーム力を発揮できるよう職員一人ひとりの学びや気づきの共有化を図っています	
内容②	職員が学んだ研修内容を職員会議で研修報告を行い伝達研修の場としています。また、サブスクリプション式の動画研修を導入し研修活動の充実にも努めています。職員の日頃の気づきや工夫については、日常業務はスタッフ会議、支援はケース会議にて話し合いサービスの質の向上や業務改善に活かしています。目標達成や課題解決に向けて、副主任が状況を把握し、ユニットごとのケース会議において主任が助言を行っています。さらに、今年度から人事評価制度が改訂（試行）されていますが、個々の仕事への意欲や振り返りとなって、効果を上げています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
タイトル③	具体的な支援の内容と、その結果状態がどのように推移したかについて記録しています	
内容③	日々の様子については記録ソフトで記録し、体調などの変化は朝会で確認をしています。毎月、職員が担当する児童の生活の状況や取り組みについて生活記録をまとめ「月まとめ」を作成し、記録は施設長が目を通し、閲覧記録として職員へ戻しています。自立支援計画は児童発達支援管理責任者だけでなく、指導職以上の職員で構成される会議の場ですべて読み合わせ、内容の確認や支援方針の調整を行っています。同意手続きと同時に個人面談を実施し、子どもの支援についてツールを見せながら説明を行い、保護者にも伝えていきます。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	個別の支援計画に基づいた支援を、多角的な視点をもって行っています
	内容	担当中心に子どもの支援課題や発達の様子についてまとめや分析を「月まとめ」に記録して、振り返りを行っています。「月まとめ」に対して施設長がコメントして支援について助言・指導する体制があり、支援計画に基づく支援を着実に実施するよう取り組んでいます。ケース会議では困難事例のみではなく、棟毎に自立支援計画の内容の共有時間を確保し、他の職員の意見も取り入れられるようにしています。関係機関や保護者とも担当職員が主に関わり情報を集約していることで、保護者の安心にもつながっています。
2	タイトル	子ども一人ひとりの状況に応じて、自立に向けた生活上の支援を行っています
	内容	子どもが楽しみながら課題に取り組めるよう、各職員が工夫して生活上の支援を行っています。将来の生活のイメージを持ち、子どもに合わせた課題を設定し取り組んでいます。将来地域での生活を目指している児童については、休日に外出してコンビニで買い物をしたり、バスを使って目的のところに行くことにも挑戦しています。食堂で好きなものを選び食事をするなど、いろいろなことを体験する機会を創っています。自立に向けては社会体験の機会や場を今以上に開拓していくことが検討されています。
3	タイトル	支援を行う中で、子どもの権利を擁護し、意思を尊重するとともに意見表明を大切にする機会を設けています
	内容	子どもたち一人ひとりに担当職員をつけることで、担当を窓口として意見を言いやすい環境にしています。年度末には全児童を対象とした職員との面談を実施し、普段からの思いを表明する場、子どもと職員が意見交換をする場を設けています。また、第三者苦情解決委員会や第三者評価事業を活用して、外部の人に自分の意見や思いを伝えられるように1対1での面談を設けています。職員に相談しやすい環境づくりをしていますが、その際は職員の価値観を押し付けてしまわないよう、職員には配慮を求めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設の建て替えが延期されましたが、利用者の安心・安全を前提にした生活環境の整備に継続して取り組むことが望めます
	内容	建て替えの延期に伴い現施設での生活が当面継続されます。利用者調査(保護者)では「老朽化を感じています」という意見がありました。経年劣化等による建物の損傷は激しく、予測している箇所を超える修繕を要しています。現に生活を送っている子どもたちの生活環境については、優先的に改善を図ることとしていますが、職員の最大限の配慮や工夫があったとしても限界があります。安定した事業運営という視点も含め、限られた予算の使い方について引き続き検討していくことが望めます。
2	タイトル	入所している子どもたちの多様化する支援課題にどのように向き合うか、日々の生活に関わる職員の支援力の向上が望めます
	内容	知的障害だけでなくとどまらず発達障害や精神障害の診断・治療を受けている子どもたちが在籍しています。特に新しく入所する子どもの中にその傾向が見られます。そして、集団生活をしていく中でその子の行動上の問題から、新たな課題が施設の中で生まれているようです。その結果、その子ばかりでなく周りの子どもたちも混乱します。そこで職員には正しい児童像をとらえる力とアセスメント力が求められます。障害の理解とその特性に合った支援力のより一層の向上を図ることが望めます。
3	タイトル	施設が求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組むことが望めます
	内容	退職等による職員の入替わりがあり職員が安定せず、結果的に支援力の低下が懸念されているようです。令和7年度は、勤続年数5年未満の職員が支援員の半数となることから、OJTを中心とした効果的かつ計画的な職員育成を図っていくことが必要です。また、人事評価制度が今年度より改定され試行されていますが、運用にあたっては、個々の職員の仕事への意欲や振り返りとなることができるように、定着を図り、職員の育成に取り組むことが望めます。

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 土田 和博

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号	
	①	植村 義秀	H1801080	
	②	川畑 俊一	H2301081	
	③	笹野 武則	H2301005	
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	短期入所			
評価対象事業所名称	友愛学園児童部		指定番号	1312800186
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-107		
	TEL	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長 石川 淳			
契約日	2025年 5月 26日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 8月 7日			
利用者調査結果報告日	2025年 11月 19日			
自己評価の調査票配付日	2025年 7月 15日			
自己評価結果報告日	2025年 11月 19日			
訪問調査日	2025年 11月 26日			
評価合議日	2026年 2月 10日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査はアンケート方式で実施しました。事業者がアンケート用紙を利用者に配布し、回答は直接評価機関に郵送してもらいました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	利用期間中は利用者が生活を楽しめるように取り組んでいます	
内容①	利用者が楽しく過ごせるように、自分のお気に入りのおもちゃや本などを家から持ってきてもよいことにしたり(使用場所や使用時間などの制限は設けています)、利用者や家族の希望・要望にできる限り応えるように努めています。児童の場合は、入所している児童と一緒に過ごしたいという要望に応え、一体的に行事や余暇活動に参加できようとするなど柔軟に対応しています。一方、成人利用者の場合は、日中活動等のメニューの幅が狭く、今後の工夫が求められます。居室は個室で、プライベートな空間を提供しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-5	家族等との交流・連携を図っている
タイトル②	家族等への情報提供や相談に乗る支援をしています	
内容②	利用者の障害特性や短期入所に伴う環境の変化からくる精神的不安などを踏まえると、支援には家族の協力が必要と考えています。事前の面談時に相互の関係について丁寧に聞き、対応法などを確認しています。利用期間中の様子については利用後に家族に報告しています。長期間利用する場合には、途中で様子を伝えたり、面会の機会を設けるようにしています。家族から相談を受けることもあり、短期入所担当者に限らず、管理職や支援スタッフが対応できるようにしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	地域で自立した生活を送れるよう支援をしている
タイトル③	地域のセーフティネットという役割が施設にはあります	
内容③	地域で生活していく中で必要な社会資源の一つとして短期入所サービスがあります。担当職員を配置して、利用者や家族、関係機関との連携・情報共有を大切にしています。短期入所期間中の日中活動として、入所の児童と一緒にイベントに参加したり、ドライブに出かけたりして、子ども同士が交流して楽しむ機会を設けています。放課後等デイサービス、学校、通所施設、相談支援事業所とは情報を共有し、支援に活かすことができ、また短期入所期間中の利用者への気づきなども施設から報告して、関係機関が協力しながら地域で見守る体制につなげています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の状況に関する情報を記載する仕組みがあり、それを職員間で共有しています
	内容	利用者の心身状況や生活状況は、短期入所登録用紙等に記録し、利用時の様子は短期入所生活記録表に記録しています。利用者のニーズや課題は短期入所登録用紙に記載しています。登録している利用者については、事前の相談時からの記録等をまとめた個人ファイルを作成しています。利用間隔が空いた場合は、改めて聞き取りを行い、登録用紙を更新しています。サービス計画書は、利用時の利用者について作成するようにしています。これらの記録や資料等を通して利用者に関する情報を職員間で共有化しています。
2	タイトル	利用者一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を地域の関係機関の協力も得ながら行っています
	内容	利用者の生活習慣や意向から、短期入所利用中でも近隣学校や通所施設へ通うことができる体制を整え、日中の生活の場が担保できるようにしています。このように、これまでの生活と同じリズムで生活ができるような取り組みを行いながらも、施設入所の児童と同じように、自分でできることは自分で行えるよう自立を促す支援を行っています。短期入所では、自立度を高めることを直接の目的にしていますが、親元を離れた生活を経験する、また他の子どもとの集団生活を経験する等良い機会となっており、入所児童と一体的な支援を行っています。
3	タイトル	利用者の健康を維持するための支援を行っています
	内容	受入れの際に体調の変化や服薬等必要な情報を収集しています。利用者の個人ファイルは、服薬の有無によって色を変えて、これまでのことも分かるようにして支援を行っています。服薬管理は誤りがないようマニュアルに基づいて、入所児童と一体的に服用しています。体調変化には、緊急時対応マニュアルに基づいて対応することとして、保護者に速やかに連絡するようにしています。保護者から健康相談などがあれば、看護師や支援員の立場から助言、相談に乗っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	短期入所事業は地域資源であるが、希望に応じられない場合があり、地域関係機関との協力関係の強化が望めます
	内容	短期入所事業が地域資源であるという認識の下、情報は広く公開し、相談も広く受け付けています。そのため、近隣のみではなく都内全域や埼玉県の方の受け入れも行っています。短期入所受入れ担当者が配置され、希望を踏まえ利用調整を行っています。登録者に対しては、緊急時の利用も柔軟に対応しています。ところが、近年希望者が多く、受け入れ過多となってきており、希望通りの利用ができないことが生じています。施設内で感染症等が発生した場合に受け入れ停止などもあるため、地域関係機関との協力関係を強化することが望めます。
2	タイトル	利用者の生活・活動の場として、少しでも過ごしやすい環境を整えるよう工夫することが望めます
	内容	施設の老朽化が進んでいるため、ここ数年施設建て替えに向けた検討が行われてきましたが、実現に向けては現実的に不透明感が増してきています。もっと安心して快適に生活できる生活環境を、入所児童ばかりでなく短期入所を利用する児童や保護者も希望していると思います。当面の対応策としては、建物の欠陥箇所を発見した場合は、事故防止の観点から速やかに修繕を行い、利用者の生活・活動の場として、少しでも過ごしやすい環境を整えるよう日々の工夫が望めます。
3	タイトル	受け入れている成人の利用者に対する活動の場を創設できないか、検討が望めます
	内容	児童部の短期入所は「併設・空床型」で定員は4名です。児童施設ではありますが、成人の利用も可能です。利用する居室は個室化され、プライバシーが守られる工夫がされています。また支援をするにあたっては、子ども扱いにならないような対応を職員は意識しています。しかし、児童施設ゆえに日中活動のメニューなども成人向けのものに限られています。職員体制を整えることが必要になるかもしれませんが、ボランティアの受け入れや、見守りだけで安全に取り組める軽作業種目の導入など、より一層の工夫が望めます。